

肝移植手術を受けられた方の将来に妊娠・出産につきまして

これから今後の妊娠・出産について、また妊娠・出産をお考えになった場合にお気を付けいただきたいこととお話しさせていただきます。

肝移植を受けた女性は赤ちゃんを産めるの？

→

肝移植を受けられた方がご出産されたのは、今から 50 年前が最初といわれています。現在では、多くの肝移植を受けられた患者さんが妊娠・出産をご経験されています。まとまった報告としては、アメリカより 121 人の女性の方の 202 妊娠が報告されています。

この報告では 74%の方が無事に赤ちゃんをご出産され、21%の方が流産され、5%の方が妊娠中絶を選択されています。一般に流産率は 20-30%と報告されており、肝移植を受けたことが流産率の増加につながっている訳ではないといえます。

これから元気に赤ちゃんを産んでもらうことが十分期待できるといえそうです。

肝移植から妊娠までどれくらい待たないといけないの？

→

これまでの報告をみると 1 年以上は待つて妊娠する必要がありそうです。

イギリスからの 45 人の女性の 71 妊娠の報告では、1 年以内に妊娠した場合には早産や急性拒絶反応のリスクが増加すると報告されています。また別の報告では、1 年以内に妊娠した場合に 7 妊娠の内 6 妊娠（86%）で流産され、対して 2 年以上間隔が開いた場合には 23 妊娠中 18 妊娠（78%）で無事にご出産されています。

妊娠した場合にはどのようなリスクがあるの？

→

母体のリスクとしては、高血圧・妊娠高血圧症候群のリスクが一般より高いと報告されています。血圧上昇が著明な場合には、妊娠継続が危険である場合があり早産となる可能性が高くなります。先ほどご紹介した、アメリカからの報告でも 35%で早産（一般で 12%程度）になっています。

しかし、近年未熟児医療も進歩しておりますので、妊娠 28 週（妊娠 8 か月）まで妊娠が継続されれば 95%以上で無事に赤ちゃんが成長していくことが望めます。

お産は普通に産んであげられるの？

→

これまでの報告からは肝移植を受けているからといって、帝王切開術でお産しなければならないということはありません。一般の方たちと同様に普通に赤ちゃんを産んであげることができます。

免疫抑制剤は赤ちゃんには影響しないの？

→

薬剤の種類によって想定される赤ちゃんの影響は異なります。しかし、免疫抑制剤により一般の奇形発生率（2-3%）を増加させるという報告の方が少なくなっています。

無事に赤ちゃんを産むためには、妊娠・出産中も適切な投薬は受けていただくことが必要となります。

妊娠をお考えになった場合には妊娠前に使用している投薬の影響をご相談いただくようにお勧めいたします。

以上、簡単にご説明いたしました但医療・医学の進歩により内容が変化する場合があります。今後、妊娠・分娩について話が聞きたい場合にはご相談いただければ対応させていただきます。

周産期診療部産科

合併症妊娠外来

2011年4月7日現在